

研究授業「図画工作 I」の実施

小 西 博 子

Enforcement and reflection of an open class

“Arts and Crafts I”

Hiroko Konishi

Abstract

This paper is record of an open class on Arts and Crafts I ,performed in the Department of Early childhood Education of Takamatsu Junior College.

This class was performed as part of the project named ‘Open Classes by the Teachers in the Department of Early Childhood Education’ (supported by the back-up Expenditure to Improve Teaching-learning Methods for 2007,from the special expenditure to promote advanced higher education),which has been practiced since 2003.The project aims to pick out pedagogical problems and seek solutions through discussions after each full-time teacher in the Department of Early childhood Education makes public their classes to other teachers. At the same time, it is expected that each teacher will try to improve their teaching strategy and the students’ learning strategy by contriving to ensure better classes through analyzing their own classes.

The present writer has given 10 open classes so far, and this is the first open class in 2007.

Key words : open class, arts and crafts

はじめに

本稿は、平成15年度から高松短期大学保育学科で実施されている授業改善のための事業「保育学科における教員の授業研究の実施」（大学教育高度化推進特別経費 平成19年度教育・学習方法等改善支援経費）の一環として行われた「図画工作 I」の研究授業の記録である。保育学科の専任教員がそれぞれに授業を公開し、検討会において改善すべき点を指摘し合い、学び合う。そして自らの授業を自己分析し、よりよい授業実践のために工夫し

て教育・学習方法の改善を図っている。

本学科での研究授業は、今回で10回目を数え、本講義は、平成19年度としては1回目の研究授業である。

1. 研究授業の日程

図画工作 I の研究授業および検討会は次の日程で行われた。

<研究授業>

日 時：2007年 6月22日（金） 1校時 9時～10時30分

場 所：東館3階デッサン室

授業科目：図画工作 I（担当：小西博子）

参加者：保育学科教員8名

<検討会>

日 時：2007年 6月22日（金） 6校時 18時～19時30分

場 所：西館2階保育実習室

参加者：保育学科教員8名

2. 本科目の目標と授業の進め方について

さまざまな造形表現を試みる中で豊かな感性や表現する力を身につけ、子どものいつわりのない素直な表現を受け止められる保育者としての適性を身につけることを目標にかかげている。

本科目は1年の前後期を通じて開講している。実技を中心に授業を進めているが理論と鑑賞を交え、幅広い知識を身につけることができるように工夫している。

3. 受講者の実態

本科目は保育士資格及び幼稚園2種免許取得のための必修科目で「保育・教育の内容と方法の理解に関する科目」に位置づけられている。従って本科目の受講者には保育士資格及び幼稚園教諭免許の取得を目指しているものとして美術における保育技術の基礎とな

る技能を習得させている。また同時に卒業必修科目でもある。受講生は保育学科の1年生74名を本科目の特性により3クラスに分割したクラス編成のうち、一つのクラスの25名である。

4. これまでの講義内容と本時の内容

前期

第1回 4月6日

オリエンテーション

第2回～第5回 4月20日・4月27日・5月11日・5月18日

①写生による表現

春の植物をモチーフとしてスケッチをする。

たくさん色をつくり、色の三要素を理解する。

対象を観察し、対象物から受けた感動をとらえて表現する。

②植物の描かれた名画を模写し、作者の表現方法を試みる。

第6回～第9回 5月25日・6月1日・6月8日・6月15日

構想による平面的表現

①切れ目を生かして

カラードフォルム（両面色ちがい造形紙）の特性を生かし、簡単な操作により思わぬイメージの発見をする。

②切ることからの発展 I

③切ることからの発展 II

カラードフォルムから単純な形を切り取り、さらに好きな形に切って、基本操作を試し、記憶、想像、空想などの表現や思いがけない形の発見をする。

第10回 4月21日（土）に実施 学外授業（香川県文化会館）

美術館にて作品鑑賞

山下晴義金工展 -鉄、その美と力と- 見学

第11回 6月22日（本時）

造形表現

ペープサートの創作 シナリオ作り

〈今後の授業予定〉

第12回	ペープサートの創作
第13回	ペープサートの創作
第14回	ペープサートの創作
第15回	ペープサートの創作

後期

第16回～第18回	立体をつくる・粘土やその他の素材の扱い方と表現
第19回～第21回	〃 ・機構を利用したおもちゃの制作
第22回～第23回	しくみで遊ぶ・折り目の構造
第24回～第26回	〃 ・立体からくり
第27回～第30回	各自のテーマによる作品制作・講評

5. 本時の授業展開と考え方

(1) 本時の授業の目標

今回の授業の流れは1. 物語の中で動物の擬人化の意味を考える。2. 保育者に必要な保育材料（ペープサート）を制作する中で図画工作の基本的な知識や技能を身につける。3. 表現方法に創意工夫を凝らし、集中して取り組む。スケッチブックに制作過程を残し、安易に満足しないで根気よく作業を続けることを体験する。以上の大きく3つのねらいがあった。

(2) 準備物

①ペープサート 「ちゃんとできたよ トイレ」

擬人化されたりス、ウサギ、クマが登場して展開される物語でトイレの使い方を楽しく指導できるペープサート。

②一人使い用舞台（段ボールで製作）

③学生配布資料プリント

・ペープサート創作の導入用

動物の擬人化の意味を考察する。

シナリオ作りに際しての登場人物を考察する。

物語の基本的構造を提示する。

- ・ペープサートの内容・作り方の基本
- ・シナリオの展開の仕方と実際

(資料はその説明の時に配布する。)

6. 本時の指導案

図画工作 I	保育学科 1 年 (ハ) 25 名	第11回	2007.6.22 (金) 1 校時
題目	造形表現 ペープサートの創作 「動物を擬人化して用いたシナリオの草稿作り」		
目標	動物を擬人化する意味を考え、遊びや歌、生活ルールの指導などに生かせるペープサートの草稿作りをする。 基礎的技法や知識を生かし、子どもたちの興味や関心を引き出すことができ、意欲を育てることができる楽しいペープサートの創作をめざす。		
学習内容・学習活動・指導上の留意点			
7分	ペープサートとは 今回のペープサートの創作 対象 0～5歳児 登場人物 動物を擬人化して用いる。 絵本などに動物がよくでてくる理由は何か。 登場人物にその動物を選んだ理由は何か。 内容 遊びや歌、生活ルールの指導などで使用できる。紙(うちわ式)の数は4枚以上とし、3分以内で演じられること。		
20分	作り方 基本となる人形・動く人形		
20分	シナリオ作りの説明と試作 提示した「あいさつ遊び・朝のあいさつは何か？」のシナリオにオリジナルな動物の擬人化した絵を組み合わせてみる。 劇の中で動物が次々とあいさつをかわしていくのを見て、子どもたちが自然とあいさつができるような習慣のきっかけづくりや、あいさつの必要性を伝える小道具として使えるペープサートの試作をする。		
40分	動物を擬人化して用いたシナリオの草稿		

3分	<p>受講生はそれぞれタイトルを決め、シナリオの草稿作り（絵とことば）に取りかかる。 個別に進み方の確認と作品が画一的にならないように指導をする。</p> <p>今後の予定と次時の準備物</p>
----	---

本時の参考文献

- ・ 矢野智司『動物絵本をめぐる冒険 動物－人間学のレッスン』勁草書房 2002年
- ・ 菊地政隆『まあせんせいとペープサートであそぼう』小学館 2004年
- ・ 阿部 恵『わくわくペープサート』ひかりのくに 2002年

以下の3枚のプリントは資料として授業日に配布したものである。出典は本時の参考文献の中から引用したものである。

学生配布資料1（授業の始めに配布）

図画工作 I

受講生書き込み用

造形表現

ペープサートの創作

「動物を擬人化して用いたペープサート作り」

教科書：幼児・初等教育 造形コース

p 20 p 43 参照

ペープサートとは

紙人形劇のことで英語風に *paper puppet theater*（ペーパーパペットシアター）と呼ばれ、長すぎると詰めた言葉で「ペープサート」となった。

ペープサートは絵を描いた紙に竹串や割り箸などの棒をつけたうちわ式平面人形劇である。表と裏にそれぞれ違う絵を描いてクルクル返して演じるだけでたくさんの表現ができる。さまざまな感情や動作を伝えることができ、舞台に立てて話をするのが一般的である。

保育園などで子どもたちの主活動の前後や導入など保育活動の合間のちょっとした時間に子どもたちと楽しむことができ、保育者を助けてくれる小道具である。

ペープサートのシナリオ作り

- 対象 0～5歳児
- 登場人物 動物を擬人化して用いる。

なぜ絵本などに動物がよくでてくるのか・・・？

子どもは動物のことが好きだから・・・

なぜ子どもは動物が好きなのか・・・？

子どもだけでなく大人も動物が好きである。

動物園に小さいときは親に連れられて・・・

子どもが生まれると親として・・・

孫が生まれるとおじいさん、おばあさんとして・・・

なぜ動物園に行くのか・・・？

動物は周りにたくさんいる・・・服や持ち物の図柄・野球チームなどのマスコット・他

なぜ動物がマスコットになっているのか・・・？

ペープサートの登場人物もこのような疑問意識から考えてみよう。

子どもの物語の基本的構造・・・何かが登場するとその何かが事件を起こしある決着をつけて、元に戻ってくる。

学生配布資料2（基本となる人形、動く人形説明時に配布）

- 内容 遊びや歌
生活ルールの指導など

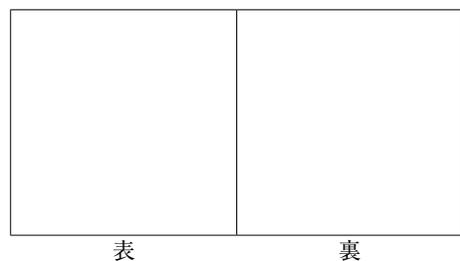
■ 作り方

- 1 ケント紙に表と裏の絵を描き、外形の形を工夫して切り抜く。
- 2 表か裏のどちらか一方に糊をつけ（または両面テープを貼り）真ん中に竹串か割箸などの棒をのせ、その上にもう一方の絵をのせ貼り合わせる。

・ 基本となる人形

表と裏の人形の絵が同じで、人形の向きは表と裏が正反対になっているもの（右向きと左向きの人形で斜め横向きに描く）

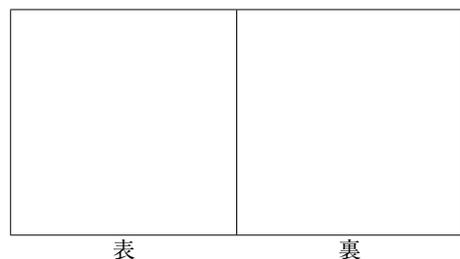
すばやくひっくり返すことで人形の向きが変わったり、動いて見えたりするので、子どもたちの興味を引きつけることができる。



・ 動く人形

表と裏の人形の絵が異なっており、表から裏へ素早く返すと人形が動いたように見えるもの

例 ゆれるブランコ
ボールあそびなど



学生配布資料3（シナリオ作りの説明時に配布）

■ シナリオ作り

例 タイトル（あいさつ遊び 朝のあいさつはなにかな？）

1	表	裏
絵		

ことば

表 おはよう

裏 ございます。

表 ほく〇〇くん。今日はほくのお友達を呼んでいるんだ。

おーい、うさちゃん！

2	表	裏
絵		

ことば

表 はーい、うさちゃんです。おはよう

裏 ございます。

かわいい～。うさちゃんのあいさつはお耳なんだね。

表 そうそう、今日はわたしのお友達のキリンくんもきているんだ

よ。・・・・・・・・・・・・・・・・つづきは創作してください。

（劇の中で動物が次々とあいさつをかわしていくのを見て、子どもたちが自然とあいさつができるような習慣のきっかけづくりや、あいさつの必要性を伝える小道具として幼稚園や保育現場で使える。）

7. 授業を終えての自己省察

保育学科のカリキュラムの中で「図画工作Ⅰ」の占める位置は「保育内容－表現Ⅰ」と同様に保育学科の専門科目の保育・教育の内容と方法の理解の系列に属する。

「図画工作Ⅰ」は表現及び鑑賞の活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにするとともに造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養うことを目標に設定して、指導できる人材を育てることをねらいとしている。

また「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」に示されている5領域の中の一つの感性と表現に関する領域の「表現」は「表現Ⅰ」、「表現Ⅱ」、「表現Ⅲ」に分かれる。その「表現Ⅰ」が美術の内容である。そのねらいは①いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。②感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。③生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。以上の3つであり、「図画工作Ⅰ」のねらいと重ね合わされることが多いができる限り幼稚園教育や保育現場で生かせる題材を設定しなければならないと考えられる。

今年度は「図画工作Ⅰ」と「保育内容－表現Ⅰ」の受講者が同一であった。両科目に「ペープサートの創作」を設け、それぞれの科目の目標を意識しながら継続して取り組み、時間数を確保した。図画工作の基本的な知識・技能の獲得を目標にしながら、一方保育実践に直接生かせる作品作りと欲張ったため目標が定まらなかったことを反省している。

検討会では多くの貴重なご意見をいただいたので授業の中で改善していきたい。

今回の授業の進め方は大きく3回の流れを作って授業を展開した。その都度学生の学習意欲を喚起することを目指し、各流れごとにプリント配布を行い、気持ちの切り替えをし、集中力がとぎれないような授業の流れの配分をした。机間指導をしながらの個別指導と全体指導のバランスが学生の作品のレベルを高めるためには重要であると考えている。

学生にはスケッチブックに個々の作品の制作過程・思考の軌跡を留めさせ、蓄積させ、よりレベルアップすることの意味を考えさせたい。指導者は作業を安易に終わらせないように学習活動を後押ししながら、対話を交え、個々の学生の理解に努めている。

授業参観記録の中で、私が今回学生に伝えたかったことを理解し、私に励ましをくださった記録の一部を紹介する。

「教師は創作活動中ではファンタジーの世界に入ること。また創作終了後には現実世界に戻って来ることを指導していた。それは安心して自己表現ができる場を設定し、また

ファンタジーという場を設定することで授業における『異化』効果を体験させることにもつながっていた。現実世界では表現することのできない表現をファンタジーという虚構の世界へと学生を誘うことによりもう一人の自分に表現させ、教師の指導から新しい意味世界が開かれていた。」受講した学生たちに伝わっていることを願っている。

卒業後、保育者・幼稚園教諭として就職し、すぐに役立つものづくりとは何か。職場で即使えるものづくりより自分で考える素地を作ることが大切と考えている。短期大学の2年間で学問的なレベルまで踏み込むには難しいことが多いが私は挑みたい。

ペープサートの創作が完成してから「保育内容－表現Ⅰ」の時間を使い、ペープサートの演じ方を練習した。筋書きをさらに推敲させ、観客の学生を園児に見立てて実演をさせ、DVDに収録した。本学の学内から閲覧できるホームページで公開している。

末筆ながら研究授業に協力していただいた学生、貴重なご意見やご指導・ご支援をいただきました先生方に感謝いたします。

高松大学紀要
第 49 号

平成20年 2月25日 印刷

平成20年 2月28日 発行

編集発行 高 松 大 学
高 松 短 期 大 学
〒761-0194 高松市春日町960番地
TEL (087) 841 - 3255
FAX (087) 841 - 3064

印 刷 株式会社 美巧社
高松市多賀町 1 - 8 - 10
TEL (087) 833 - 5811